

親子間の運動習慣・嗜好の関係性

-長崎県を事例に-

1210553 八木原綾音

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

現在、子どもの体力や運動能力の低下や運動実施未実施の二極化が全国的に問題視されている。この問題に対して、政府や自治体などでは子どもの運動・スポーツへの参加、身体活動量の増加、体力向上を目指す取り組みを推奨している。また、この問題に焦点を当て、子どもの体力・運動能力向上を目的とした研究も多くある。しかしながら、子どもの運動・スポーツの習慣化を目指す施策に必要な情報は不足している。

本研究では、子どもの運動習慣における親からの影響を明らかにすることで、子どもの運動習慣化の施策を提案した。

2. 背景

我が国の子どもの体力は昭和 60 年をピークに低下傾向にある。また、運動する子どもとしない子どもの二極化が指摘されている (図 1-1)。

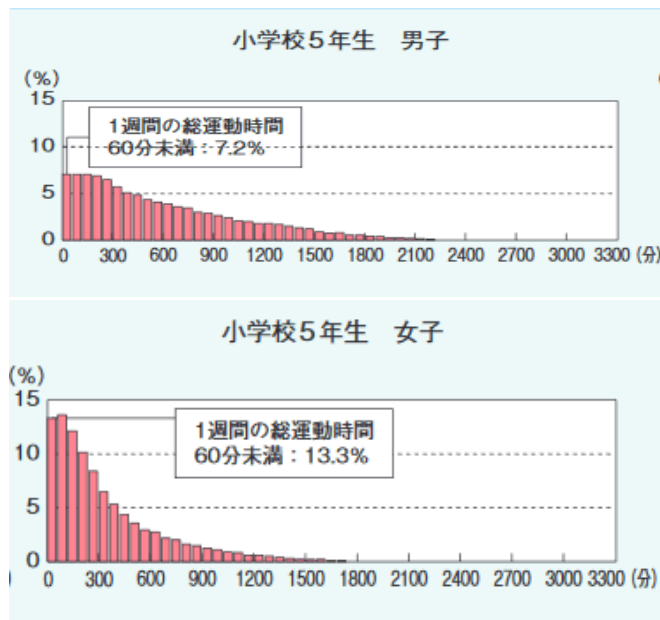


図 1-1 児童生徒の体育・保健体育の授業を除く

1 週間の総運動時間の分布 (出典: 文部科学省, 2018)

近年スマートフォン・ゲームの普及や外遊びの減少による

運動不足によって、子どもたちは運動器機能が低下している。このような状態を「運動機能不全」または「子どもロコモ」と呼び、子どもたちの身体には、そのため、しゃがめない、腕が真っ直ぐ挙がらない、体前屈できない、すぐ骨折するなど異変が生じている (鈴木・矢野, 2019)。スポーツ庁では、子どものスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境の整備を図ること、そうした取組の結果として、今後 10 年以内に子どもの体力が昭和 60 年頃の水準を上回ることができるよう、今後 5 年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを制作目標としている (文部科学省, 2012)。そして、体力と運動習慣には相関関係があることも明らかにしている (図 1-2)。

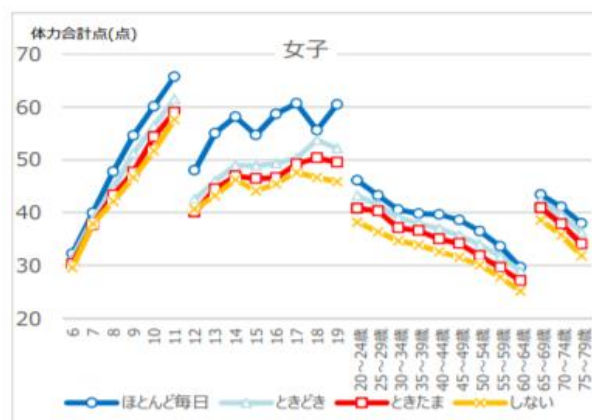
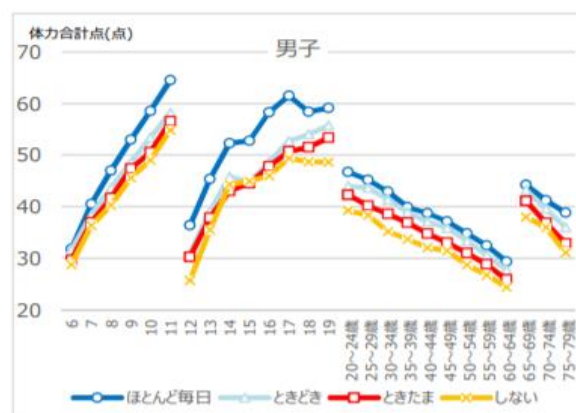


図 1-2 運動・スポーツ実施状況合計点

(出典：文部科学省，2012)

しかし、図 1-3 に見られるように、近年、子供たちの外で遊ぶ時間は減少しており、子どもたちの放課後の過ごし方は、勉強とテレビ番組や動画の視聴・ゲームで遊ぶこと（メディア）が半分以上を占めている（ベネッセ教育総合研究所，2015）。

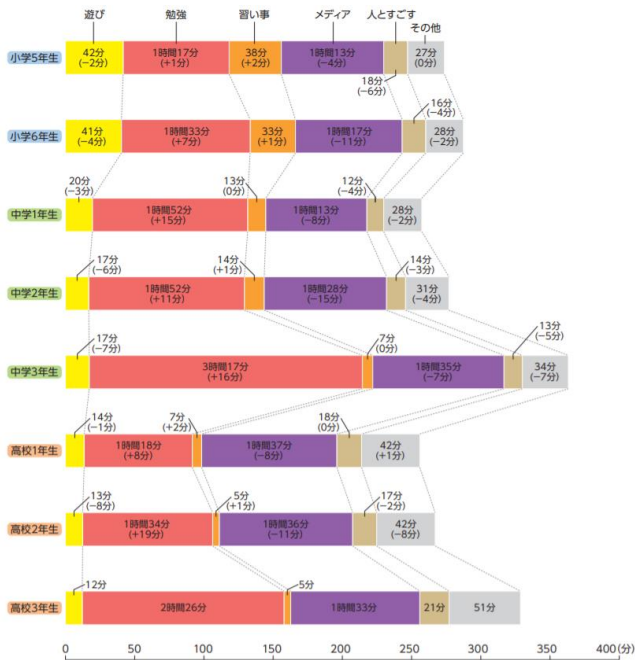


図 1-3 放課後の時間の使い方

(出典：ベネッセ教育総合研究所，2015)

筆者も子どもの外遊び減少を実感している。筆者には年の離れた弟がおり、室内でゲームをすることが多いと感じていた。弟はスポーツの習い事をしているため、習い事の時間は運動をしているが、習い事をしていない子どもは普段どのように過ごしているのか疑問を持った。また、弟のように習い事をしていても、それ以外の時間に運動・スポーツをしている子どもはどのくらいいるのか疑問を持った。

先行研究では、子どもの運動への親からの影響についての研究が散見される。しかし、親子の運動嗜好、運動の得意不得意には正の相関があることが明らかになっている（前田・紺田，2019）一方で、親の運動嗜好が子どもの体力・運動能力に影響を与えるかは定かではなかった（長野・足立，2018；中野ほか，2019）。

さらに、親が子どもの運動習慣に与える影響についての研

究が存在しないため、本研究では、子どもが運動を習慣化するために親がどのような影響を与えるのか明らかにすることとした。そして、子どもの運動習慣には親の運動習慣や嗜好が影響を与えているという仮説を立てた。

3. 目的

本研究では、筆者の地元である長崎県の親子の運動習慣・嗜好の関係性を比較・分析し、子どもが運動を習慣化するために、親がどのような影響を与えるのか明らかにする。また、地域間で親子間関係、子どもの運動嗜好・習慣に違いがあるのか明らかにする。

4. 研究方法

4.1 対象

本研究は、ヒアリング調査とアンケート調査で構成されている。ヒアリングの対象は、長崎県庁スポーツ振興課、対象地域の市役所のスポーツ振興課、推進班、各市の総合型地域スポーツクラブである。

アンケート調査の対象は、長崎県長崎市、佐世保市、平戸市、五島市の公立・私立小学校に通う児童とその保護者である。対象児童においては、各地域の学校の管理職に交渉し、調査の承諾を得た学校の児童であり、任意のアンケート調査を行った。

4.2 調査方法

(1) ヒアリング調査

長崎県庁スポーツ振興課、対象地域の市役所のスポーツ振興課、推進班、各市の総合型地域スポーツクラブへのヒアリング調査を実施した。

(2) アンケート調査

(1) のヒアリング調査をもとに対象の親子にアンケート調査を実施した。親子ともに運動嗜好性や運動習慣についての質問を中心としたアンケート調査を行った。調査用紙は A4 冊子 7 ページで構成した。調査用紙に QR コードと URL を記載し、Web 回答と記入回答が選択できるようにした。

4.3 調査日時

調査日時はそれぞれ以下の通りであった。

(1) ヒアリング調査

2020年2月27日：平戸市役所スポーツ推進班

同年 6 月 24 日：長崎県庁スポーツ振興課
同年 6 月 25 日：佐世保市役所スポーツ振興課
同年 6 月 29 日：佐世保市総合型地域スポーツクラブ 2 団体
平戸市総合型地域スポーツクラブ
同年 7 月 1 日：佐世保市総合型地域スポーツクラブ 2 団体
同年 7 月 29 日：長崎市役所スポーツ振興課、長崎市総合型
地域スポーツクラブ 2 団体
同年 8 月 19 日：五島市役所スポーツ振興課

(2) アンケート調査

2020 年 9 月 24 日～2020 年 10 月 16 日

4.4 調査項目

(1) ヒアリング調査

長崎県の子どもたちの体力・運動能力の現状、各団体が子ども
の運動・スポーツにおいて行っている対策やイベントの有無、各団体から見る運動・スポーツにおける各地域の子
どもたち・親子間の現状を調査した。

(2) アンケート調査

性別、年代（学年）、職業の基本情報に加えて、親子に共
通する質問項目と親のみの質問項目を設けた。親子共通の質
問項目としては、運動嗜好、運動習慣、運動・スポーツクラ
ブへの加入の有無を設けた。親のみの質問項目としては、過
去の運動歴、会場でのスポーツ観戦経験、自宅で TV やイン
ターネットでのスポーツ観戦の有無、子どもとの会場でのス
ポーツ観戦経験、子どもとの自宅で TV やインターネット
によるスポーツ観戦の有無を設けた。子のみの質問項目とし
ては、クラブ加入をしている子にクラブ加入の理由を設け
た。

運動嗜好については、「運動・スポーツすることは好きで
すか。」という質問に対し、「1. 好き」、「2. どちらかという
好き」、「3. どちらかという嫌い」、「4. 嫌い」のうち、い
ずれか 1 つの選択を求めた。運動習慣については、緊急事態宣
言前において、1 週間に何日かつ何時間運動・スポーツを実
施しているか記述式で回答を得た。2 週間に 1 日または 1 か
月に 2～3 日の場合は週 0 日に分類した。スポーツクラブへ
の加入については、「クラブ等に所属していますか。」という
質問に対し、親には「1. 総合型地域スポーツクラブ」、「2. 民
間のスポーツクラブ」、「3. 地域のサークル」、「4. その他」、
「5. サークル・クラブなどに入っていない」のうち複数回答

可で選択を求めた。子には「1. 学校の運動部活動・クラブ活
動」、「2. 民間のスポーツクラブ」、「3. 地域のスポーツクラ
ブ」、「4. その他」、「5. 運動部・クラブに入っていない」のう
ち複数回答可で選択を求め、運動・スポーツの種目を自由記
述とした。クラブに加入している子においては、クラブ加入
の理由として「1. お父さん・お母さんがいるから」、「2. お父
さん・お母さんにすすめられたから」、「3. 兄弟・姉妹が
いるから」、「4. 兄弟・姉妹に誘われたから」、「5. 友達が
いるから」、「6. 友達に誘われたから」、「7. その他」のう
ちいずれか 1 つの選択を求めた。親の過去の運動歴におい
ては、「小学校」、「中学校」、「高校」、「大学・大学院・
短大・各種学校」、「10 代（学生でない）」、「20 代（学生
でない）」、「30 代」、「40 代」、「50 代」、「60 代以上」
の各項目で半年以上継続して実施した運動・スポーツの種
目を自由記述で求めた。会場でのスポーツ経験においては、
「1. ある」「2. ない」のどちらかの選択を求めた。そし
て「1. ある」と回答した人に、会場での子どもとのス
ポーツ観戦経験において同様の選択を求めた。自宅での
スポーツ観戦の有無においては、「TV やインターネットで
スポーツ観戦をしますか。」という質問に対し、「1. する」、
「2. どちらかというとする」「3. どちらかというとし
ない」「4. しない」のいずれか 1 つの選択を求めた。そ
の後、回答 1 および 2 を「1. 観戦する」3 および 4 を「2.
観戦しない」の二値にカテゴリ化した。また、「子どもと
一緒に TV やインターネットでスポーツ観戦をしますか。」
という質問に対し、同様の選択を求め、先述のようにカテ
ゴリ化した。

いずれも「その他」の回答においてはその内容を自由記
述とした。

4.5 データ分析

アンケート調査の結果をもとに以下の事項に関して単純集
計を行った。

- 1) 親の年代・性別・居住地・職業・クラブ加入未加入・ス
ポーツ経験の有無
- 2) 子の学年・性別・クラブ加入未加入・クラブ加入理由
また、以下の事項に関してクロス集計およびカイ二乗検定
を行った。
 - 1) 親子のスポーツクラブへの加入の有無
 - 2) 地域別の親のスポーツクラブへの加入の有無

3) 地域別の子のスポーツクラブへの加入の有無

4) 地域別の親のスポーツ経験

また、以下の事項に関して平均値の差を t 検定により検討した。

1) 親の地域別の運動嗜好・習慣の違い

2) 子の地域別の運動嗜好・習慣の違い

3) 親のスポーツ経験有無、子どもとの会場での

スポーツ観戦経験の有無、子どもとの TV やインターネットでのスポーツ観戦の有無と子の運動習慣の違い

上記の 1)、2) に関しては地域間の多重比較による検討も行った。

親子間の嗜好・習慣において相関分析を行った。

4.6 倫理的配慮並びに個人情報の取り扱い

対象校の管理職には、調査の主旨と内容、データの取り扱いについて対面または電話で説明し、調査実施の承諾を得た。アンケート調査は無記名で行われ、保護者へは調査の主旨と内容を紙面にて説明し、同意を得た。保護者と児童のデータは連結し、ID を付して管理した。

5. 結果

(1) ヒアリング調査

まず、長崎県の子どもたちの体力・運動能力の現状においては、全国平均と比較して、総合的には上回っていた。しかし、詳細を見ていくと、筋力や俊敏性を測る種目において、全国平均より下回っていることが明らかになった。各地域の子どもたちの体力・運動能力についてのデータは個人情報となるため、公開できないとのことだった。

次に、各団体が運動・スポーツにおいて行っている対策やイベントにおいては、県として体育教育における対策（外部講師など）はあるが、放課後や休日など学校教育以外での対策・イベントや、各地域の課題に沿った対策・イベントは行っていないとのことだった。各地域では資金の補助のみ行っていることが明らかになった。また、地域によっては総合型地域スポーツクラブと協力して地域の課題を克服しようとしているところもあった。しかし、思うように実現できていないことが現状であった。

最後に、各団体から見る運動・スポーツにおける各地域の子どもたち・親子間の現状においては、親の運動・スポーツ

に対する考え方によって、子どもの運動・スポーツに対する関わり方が異なることが明らかになった。例えば、運動・スポーツが好きであったり、過去に本格的に運動・スポーツをしていたような運動・スポーツに対してプラスイメージを持つ親は、子どもをクラブ等に預ける際に子どもの運動・スポーツする様子をそばで見学していたり、指導者と子どものことで積極的にコミュニケーションを取っている。しかし、運動・スポーツが嫌いであったり、運動・スポーツに対してマイナスイメージを持つ親は、子どもをクラブ等に預けるとすぐに帰宅してしまったり、指導者とのコミュニケーションはほとんどない。

また、地域間の総合型地域スポーツクラブ格差が明らかになった。佐世保市は長崎県の中でも総合型地域スポーツクラブが多くあり、会員数が 1000 人を超えるクラブも存在するほど積極的に活動をしている。しかし、他のクラブは会員数が少ないことが課題として挙げられ、全てのクラブにおいて年代層の偏りが見られた。長崎市の総合型地域スポーツクラブの 1 つでは、18 歳以下の会員が少なく、40 代以降の会員が過半数を占めていた。もう一方のクラブは 18 歳以下の会員が 0 名であった。そのため、クラブ継続が危ぶまれている状況であった。平戸市では子ども対象の教室等を開催していた。しかし、年々平戸市の人口減少と共に会員数も減少していることが明らかになった。また、一般の保護者が別で仕事をしつつ運営をしているため、柔軟に活動できていないことが明らかになった。五島市では、元々総合型地域スポーツクラブが存在していたが、人口減少から運営が厳しくなり、現在はスポーツ少年団のみが存在していることが明らかになった。

(2) アンケート調査

4 地域 22 校計 3281 部配布し、返ってきたのは 1220 部であり、そのうち有効であったのは 1148 部（親 1041 部、子 1148 部）で、返答率は 37.2%であった。

①親に関するデータ

表 1 親の世代と年齢

	母		父		合計	
	n	%	n	%	n	%
20代	11	1.3	2	1.1	13	1.3
30代	349	40.6	53	30.3	402	38.9
40代	470	54.7	100	57.1	570	55.1
50代	29	3.4	15	8.6	44	4.3
60代以上	0	0.0	5	2.9	5	0.5
合計	859	100	175	100	1034	100

※無回答は除く

表1では、親の年代と性別の割合を示している。母親が859名、父親が175名であった。年代では、30代が38.9%、40代が55.1%であった。

表2 親の居住地

	n	%
平戸	240	23.1
佐世保	181	17.4
長崎	515	49.5
五島	105	10.1
合計	1041	100.0

※無回答は除く

表2では、親の居住地の割合を示している。平戸市が23.1%、佐世保市が17.4%、長崎市が49.5%、五島市が10.1%であった。

表3 親の職業

	n	%
自営業	87	8.5
家庭従事者	16	1.6
勤め人（会社員、公務員、研究者、教員など）	485	47.5
専業主婦・主夫（パートやアルバイトをしていない方）	174	17.0
パートやアルバイト	247	24.2
無職	6	0.6
答えたくない	4	0.4
その他	3	0.3
合計	1022	100

※無回答は除く

表3では、親の職業の割合を示している。勤め人の割合が47.5%と最も高い。勤め人、専業主婦・主夫、パートやアルバイトが過半数を占めていることが確認された。

表4 親のクラブ加入未加入

	n	%
加入	133	13.9
未加入	824	86.1
合計	957	100

※無回答は除く

表4では、親のクラブ等への加入未加入の割合を示している。多くの親がクラブ未加入者であることが確認された。

表5 親の過去のスポーツ経験の有無

	n	%
経験あり	907	87.1
経験なし	134	12.9
合計	1041	100.0

※無回答は除く

表5では、親が過去に半年以上継続した運動・スポーツについて1種目以上ある場合「経験あり」、0種目の場合「経験なし」として回答結果を示している。86.9%が「経験あり」と回答し、多くの親が過去に運動・スポーツを半年以上継続していることが確認された。

②子に関するデータ

表6 子の学年と性別

	男子		女子		合計	
	n	%	n	%	n	%
1年生	87	16.5	101	16.4	188	16.5
2年生	94	17.9	103	16.8	197	17.3
3年生	76	14.4	91	14.8	167	14.6
4年生	99	18.8	109	17.8	208	18.2
5年生	85	16.2	107	17.4	192	16.8
6年生	85	16.2	103	16.8	188	16.5
合計	526	100	614	100	1140	100

※無回答は除く

表6では、子の学年と性別の割合を示している。男子が

46.1%、女子が53.9%であり、若干女子が男子より多かった。また、1年生が16.5%、2年生が17.3%、3年生が14.7%、4年生が18.3%、5年生が16.8%、6年生が16.4%であった。

表7 子のクラブ加入未加入

	n	%
加入	666	58.4
未加入	475	41.6
合計	1141	100

※無回答は除く

表7では、子のクラブ等への加入未加入の割合を示している。若干クラブ加入者が多いことが確認された。

表8 子のクラブ加入理由

	n	%
お父さん・お母さんがいるから	6	0.9
お父さん・お母さんにすすめられたから	203	31.9
兄弟・姉妹がいるから	105	16.5
兄弟・姉妹に誘われたから	10	1.6
友達がいるから	81	12.7
友達に誘われたから	60	9.4
その他	172	27.0
合計	637	100.0

※無回答は除く

表8では、子のクラブ加入理由の割合を示している。「お父さん・お母さんにすすめられたから」と回答した割合が31.9%と最も多かった。「その他」では、「自分が入りたかったから」や「その種目に興味があったから」という回答であった。

③親子に関するデータ

表9 親子の運動嗜好・習慣の相関

	平均値	標準偏差	親嗜好	親習慣	子嗜好	子習慣
親嗜好	3.041	0.768	1.000			
親習慣(週〇日)	0.990	1.635	.273 **	1.000		
子嗜好	3.550	0.736	.248 **	.054	1.000	
子習慣(週〇日)	3.264	2.127	.058	.149 **	.294 **	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$

表9では、4地域全ての親子の運動嗜好・習慣の相関関係

を示している。親の運動嗜好と習慣、親の運動嗜好と子の運動嗜好、親の運動習慣と子の運動習慣、子の運動嗜好・運動習慣に正の相関が確認された。

表10 親子のクラブ加入未加入

		子ども		合計	検定
		加入	未加入		
親	加入	32	118	150	$\chi^2 = 30.633^{***}$
	未加入	411	494	905	
	合計	443	612	1055	

*** $p < .001$

表10では、親子のクラブ加入・未加入の結果を示している。親の過半数はクラブ未加入であり、子は大きく差はないが少し加入者が多いことが確認された。

表11 親のスポーツ経験有無、子どもとの会場での

スポーツ観戦経験の有無、子どもとのTVやインターネットでのスポーツ観戦の有無と子の運動習慣

		子どもの運動習慣		t値
		平均値(週〇日)	標準偏差	
親のスポーツ歴	あり	3.293	2.103	4.277 ***
	なし	2.486	2.120	
子どもとの会場での観戦経験の有無	あり	3.451	2.095	3.616 ***
	なし	2.997	2.120	
子どもとのTVやインターネットでの観戦の有無	する	3.487	2.012	3.901 ***
	しない	2.991	2.176	

*** $p < .001$

表11では、親のスポーツ経験有無、子どもとの会場でのスポーツ観戦経験の有無、子どもとのTVやインターネットでのスポーツ観戦の有無による子の運動習慣の平均の差の検定結果を示している。どの項目においても有意差があり、親にスポーツ経験があり、親が子どもと一緒にスポーツ観戦を行うなどの関与がある家庭において、子どもの運動がより習慣化していることが確認された。

④地域別のデータ

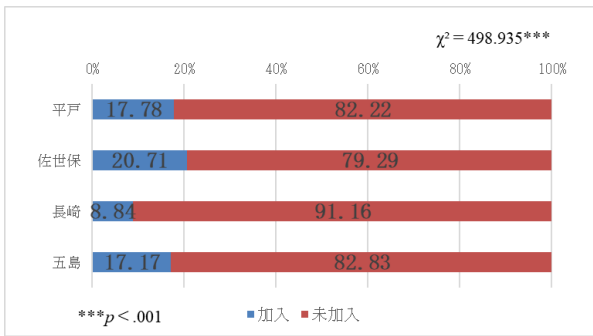


図4 地域別親のクラブ加入未加入

図4では、地域別親のクラブ加入・未加入の割合を示している。佐世保市には比較的クラブ加入者が有意に多く、長崎市にはクラブ未加入者が有意に多いことが確認された。

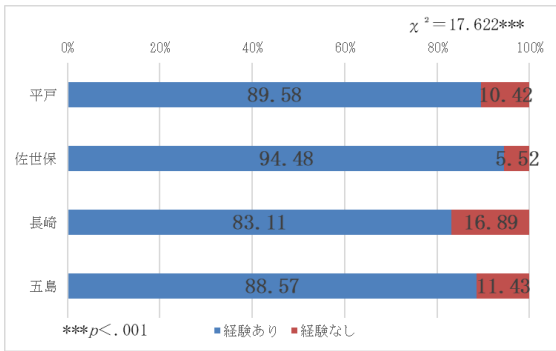


図5 地域別親のスポーツ経験の有無

図5では、地域別の親のスポーツ経験の有無の割合を示している。全地域の過半数の親が過去にスポーツ経験があることが確認された。そのうち、佐世保市には比較的過去にスポーツ経験のある親が有意に多く、長崎市には過去にスポーツ経験がない親が有意に多いことが確認された。

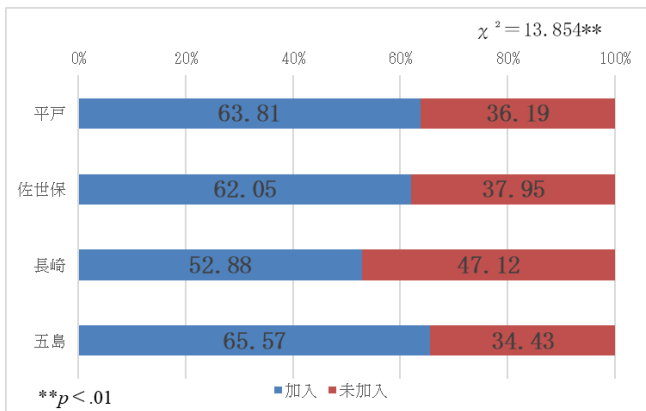


図6 地域別子のクラブ加入未加入

図6では、地域別の子のクラブ加入・未加入の割合を示している。平戸市には比較的クラブ加入者が有意に多く、長崎市にはクラブ未加入者が有意に多いことが確認された。

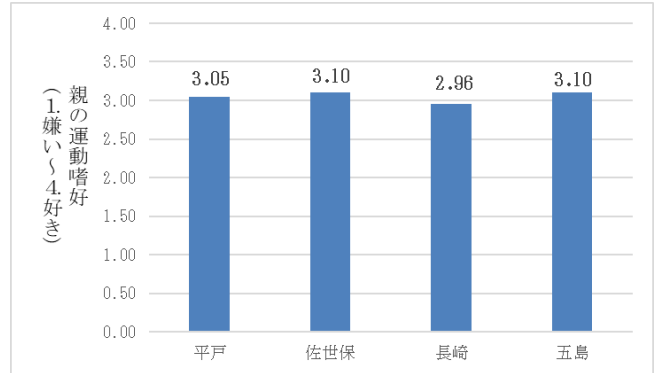


図7 地域別親の運動嗜好

図7では、地域別の親の運動嗜好の平均値の差の多重比較結果を示している。全ての地域で有意な差は確認されなかった。

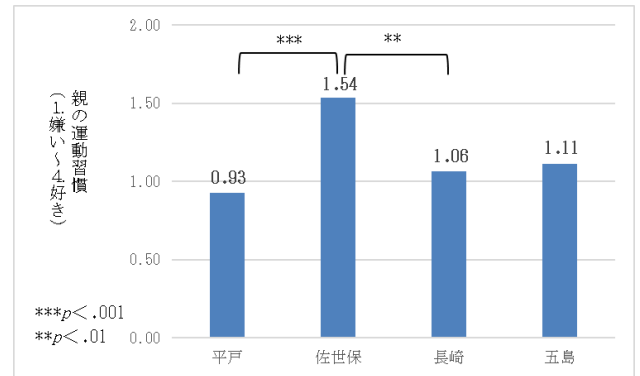


図8 地域別親の運動習慣

図8では、地域別の親の運動習慣の平均の差の多重比較の結果を示している。佐世保市の親が最も運動習慣があり、平戸市と佐世保市、佐世保市と長崎市に有意差があることが確認された。

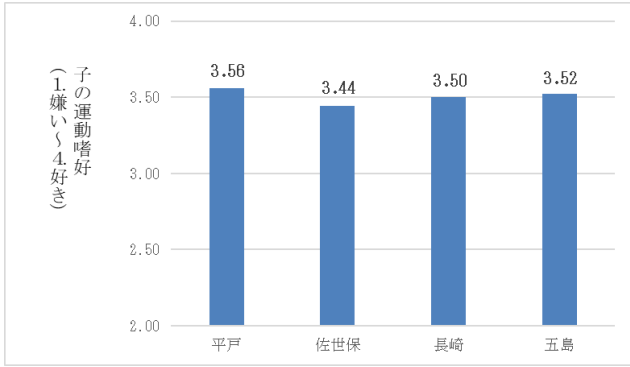


図9 地域別子の運動嗜好

図9では、地域別の子の運動嗜好の平均値の差の多重比較の結果を示している。全ての地域で有意差は確認されなかった。

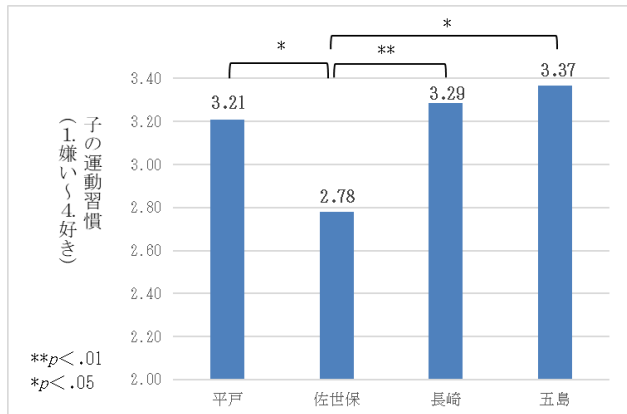


図10 地域別子の運動習慣

図10では、地域別の子の運動習慣の平均の差の多重比較の結果を示している。佐世保市が最も運動習慣がなく、佐世保市と平戸市、佐世保市と長崎市、佐世保市と五島市に有意差があることが確認された。

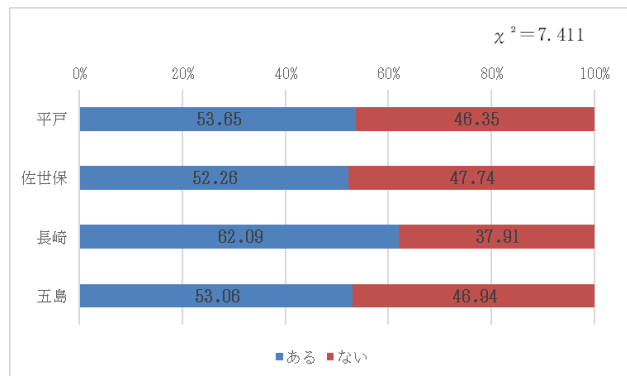


図11 地域別親の子どもと会場でのスポーツ観戦経験

図11では、地域別親の子どもとの会場でのスポーツ観戦経験の割合を示している。長崎県では会場でのスポーツ観戦経験のある家庭が多いことが確認された。特に、有意差はないものの、長崎市の親子に会場でのスポーツ観戦経験者がやや多いことが確認された。

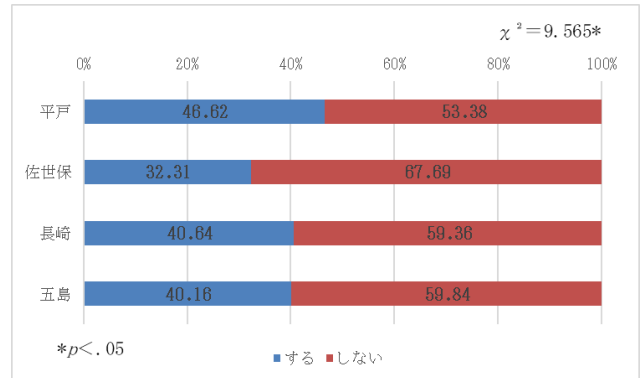


図12 地域別親の子どもとTVやインターネットでのスポーツ観戦有無

図12では、地域別親の子どもとのTVやインターネットでのスポーツ観戦有無の割合を示している。平戸市の親子がTVやインターネットでスポーツ観戦をする割合が有意に多く、佐世保市は有意に少ないことが確認された。

6. 考察

①親子の運動嗜好・習慣の関係性、親の影響

本研究の成果として、親の運動嗜好が子どもの運動嗜好に、親の運動習慣が子どもの運動習慣に、子どもの運動嗜好が子どもの運動習慣に関連していることが判明した。しかし、親の運動嗜好が子どもの運動習慣に関連していないことから、子どもの運動習慣に親の運動嗜好は直接的には影響しないことも判明した。つまり、親が運動好きだからと言って子どもの運動が習慣化することは考えにくい、親が運動好きならば子どもも運動好きになる可能性があり、それが子どもの運動習慣に影響する可能性が考えられる。結果として親に運動習慣があると、子どもが運動・スポーツに関わる機会が増える可能性があることが考えられる。

また、親のスポーツ経験、親が子どもと一緒にスポーツ観

戦を行うなどの関与が子どもの運動習慣に関連していることが判明した。親が過去にスポーツ経験があると、子どもの運動が習慣化する可能性があることから、その子どもが親となった時に次世代の運動習慣に影響をもたらす可能性を示唆している。また、会場でのスポーツ観戦や自宅でTVやインターネットでのスポーツ観戦などの家庭内でのコミュニケーションが子どもの運動習慣に必要なことが考えられる。さらに、長崎県では、会場でスポーツ観戦をする割合が多いことが判明した。この結果にはJリーグのプロサッカークラブであるV・ファーレン長崎の影響が大きいと考える。V・ファーレン長崎は2005年に創設され、2017年にはJ1へ昇格した。2018年にはJ2へ降格したが、長崎県内のV・ファーレン長崎の人気は増すばかりである。V・ファーレン長崎の影響もあり、特にホームスタジアムのある長崎市の親子は会場に足を運び、日常的にスポーツ観戦をしていることが考えられる。このようにして、運動・スポーツにおける親とのコミュニケーションを行うことで、子どもの運動習慣化が期待される。

②地域間での親子間関係、子どもの運動嗜好・習慣の違い

本研究では、平戸市の親は過去のスポーツ経験者も多く、クラブ加入者も比較的多いが、運動習慣が最も少ない。親子の運動習慣に正の相関関係があることが判明していることから、子の運動習慣のために親の運動を習慣化することが必要であると考えられる。

佐世保市の親の運動習慣が4地域のうち最もあることが明らかになった。それは、クラブへの加入率が関連していると考えられる。ヒアリング調査からも、佐世保市の総合型地域スポーツクラブは比較的積極的に活動をしている。そのため、佐世保市の親のクラブ加入者が多いことは総合型地域スポーツクラブの影響である可能性があると考えられ、運動習慣にも影響を与えていることが考えられる。しかし、佐世保市の子どもの運動習慣は4地域のうち最も少ないことも明らかになった。本研究の結果から、TVやインターネットでのスポーツ観戦が子どもの運動習慣に関わることが判明しているが、佐世保市の子どもはそのような習慣が定着しておらず、運動習慣としても比較的不いことが考えられる。子どもの運動を習慣化させるために親に子どもとの関与を求めることが必要であると考えられる。

長崎市は、親子ともにクラブ加入者が最も少ない一方で、子どもの運動習慣は比較的高いという結果であった。本研究の結果からは、会場での子どもとのスポーツ観戦経験が子どもの運動習慣に関連していることが判明している。そのため、会場でのスポーツ観戦経験が多い長崎市の子どもは運動習慣が比較的高いことが考えられる。

またヒアリング調査において、五島市には総合型地域スポーツクラブがなく、スポーツ少年団のみ存在しているが、子どもの運動習慣が4地域のうち最も多いことが明らかになった。総合型地域スポーツクラブという形で組織を継続させることは難しいかもしれないが、スポーツ少年団などの親や地域住民の努力でバックアップできている可能性を示唆している。ただし、人口減少に伴い、今後スポーツ少年団の継続が課題となる可能性があるため、今後の対策について考えておく必要がある。

7. 今後の課題

本研究では、両親のどちらか一方にのみアンケート調査を実施したが、親の性別によって子どもに与える影響が異なる可能性も考えられる。そのため、今後は両親とその子どもにアンケート調査を実施する必要があると考えられる。

8. まとめ

本研究は、筆者の地元である長崎県の親子の運動習慣・嗜好の関係性を比較・分析し、子どもが運動を習慣化するために、親がどのような影響を与えるのか明らかにすること、また、地域間で親子間関係、子どもの運動嗜好・習慣の違いがあるのかを明らかにすることを目的とした。対象は長崎県内4地域22校の小学生児童1148名とその保護者1041名であった。結果として、親の運動嗜好・習慣と子どもの運動嗜好・習慣に正の相関が確認された。また、親の過去のスポーツ歴があり、親と共にスポーツ観戦する子どもの方が運動習慣があることが確認された。地域間では運動習慣に有意な差が確認され、総合型地域スポーツクラブやスポーツ観戦がその要因であることが確認された。運動・スポーツにおける親とのコミュニケーションにより多くの子どもの運動習慣化の可能性が示された。

謝辞

本研究の作成にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導して下さった高知工科大学経済・マネジメント学群スポーツマネジメント専攻の前田和範助教に深謝申し上げます。また、本研究を実施するにあたり、多大なご協力を賜りました長崎県庁スポーツ振興課をはじめ、各市役所、各学校関係者および保護者の皆様に深謝申し上げます。

参考文献

文部科学省 (2018) 平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果、第 1 章調査の概要、2.1 週間の総運動時間と体力・運動能力、2-1.1 週間の総運動時間の分布・内訳・体力合計点との関連[小学校]、

https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2018/12/21/1411922_009-037.pdf

文部科学省 (2012) スポーツ基本計画の策定について (答申) 表紙・目次・本文、第 3 章今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策、1. 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実、

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1319043.htm

文部科学省 (2017) 平成 29 年度体力・運動調査結果の概要及び報告書について、調査結果の分析

https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2018/10/09/1409885_5.pdf

文部科学省 (2012) 子どもの体力向上のための取組ハンドブック、第 2 章全国体力調査によって明らかになったこと

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/07/18/1321174_05.pdf

文部科学省 (2012) 文部科学省幼児期運動指針策定委員会、幼児期運動指針

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm

ベネッセ教育総合研究所 (2015) 第 2 回放課後の生活時間調査、1. 24 時間の生活、3. 放課後の時間の使い方

https://berd.benesse.jp/up_images/research/file_all.pdf

鈴木伸也、矢野正 (2019) 子どもロコモの予防に関する教育

実践研究 (I)、奈良学園大学紀要 11、pp85-98

長野真弓、足立稔 (2018) 親の運動嗜好と子どもの体力の関連性の検討、発育発達研究第 78 号、24-34

中野貴博、四方田健二、坂井智明、沖村多賀典 (2019) 保護者の運動嗜好は子ども達の活動意欲や体力に影響を及ぼすのか、名古屋学院大学論集、医学・健康科学・スポーツ科学篇、第 8 巻、第 1 号 pp. 9-18

前田和範、紺田俊 (2019) 親子の運動嗜好の関連に関する研究：高知県広域運動・遊びイベントの参加者分析から、四国体育・スポーツ学会 兼 日本体育学会四国地域 2019 年度研究会抄録集